

ポジティブリスト対象病害虫の解説

農林水産省は、本年3月7日に植物防疫法施行規則を改正し、検疫の対象とする病害虫を明確化する、いわゆるポジティブリスト制を導入し、措置を講じることとした。このため、ポジティブリストの対象となる病害虫を紹介し、各都道府県や植物防疫所が実施する侵入警戒調査などの病害虫調査の参考になればと考えている。万が一、各都道府県の調査でポジティブリスト対象病害虫あるいは類似の病害虫と思われるような発見があった場合は、消費・安全局植物防疫課又は植物防疫所にご連絡頂きたい。

和名：チチュウカイミバエ
害虫名：*Ceratitis capitata* (Wiedemann)
英名：Mediterranean fruit fly

本害虫は、多くの植物に寄生し、中でも果実、果菜など経済的に重要な植物に寄生することから、世界の未発生国がその侵入を最も警戒している害虫のひとつである。

未発生地域への侵入は、成虫の飛翔と寄生果実の移動によるとされ、一旦侵入を許せば、防除に多大な経費を要することなどから、侵入を阻止する検疫措置を維持すること、また、その検疫制度の国民への周知などにより、安易に国内へ禁止品を持ち込まないような取り組みも重要となる。

我が国でも本害虫の発生国からの寄主植物を輸入禁止措置とするとともに、侵入の恐れのある海空港で定期的なトラップ調査を実施し、侵入防止に万全を期して対応している。

米国フロリダ州では、2010年の一時的な発生に対し、同州政府と米国農務省は、次のような防除を行った。

- (1) ミバエ用殺虫剤の果樹葉面等への散布処理（発見の中心地域およびそこから800m～1.6Kmの地域）。
- (2) 当該ミバエ幼虫が脱落したか、それが疑われる寄主植物下の土壌や近隣の寄主植物生育周辺土壌へ殺虫剤の薬剤かん注。
- (3) 当該幼虫の発見地点とその200m内の寄主植物からは果実や果菜を除去し、果実は厚手のビニール袋に密封し埋没処理。
- (4) 不妊虫放飼による抑圧。

このほか、ミバエ発生地のさらなる拡大を防止するため、同州政府は住民に対し、家庭菜園の果実や果菜を敷地から外へ持ち出さないよう求め、通話料無料の問い合わせ窓口（ヘルプコールデスク）も設置した。

分布地域：アフリカ諸国、ヨーロッパ諸国、中東諸国、オーストラリア、中南米諸国、ハワイなど

寄主植物：ナス科、ウルシ科、ミカン科、バラ科、ブルーベリー等多様な植物の生果実

形態：成虫は、体長約4.5～5.5mm(図A)。頭部は黄色から黄褐色。顔斑を欠く。雄の上額眼縁剛毛の前方1対先端が大きく菱形状に変形する(図B)。中胸背は黄白色域と黒斑により特徴的な紋を形成する。肩瘤は黄白色で頂部に黒斑がある(図C-a)。小楯板は黒色で基部側にジグザグの黄色横帯がある(図C-b)。前翅は中横帯、前縁帯、亜先端部横帯がある(図D)。脚及び腹部は黄色から黄褐色。

識別：外観上類似する種にはナタールミバエ(*Ceratitis rosa*)があるが、雄の上額眼縁剛毛が前述のように変形せず、小楯板は黒色で2本の細長い黄色の縦紋があること等で本種と識別可能である。

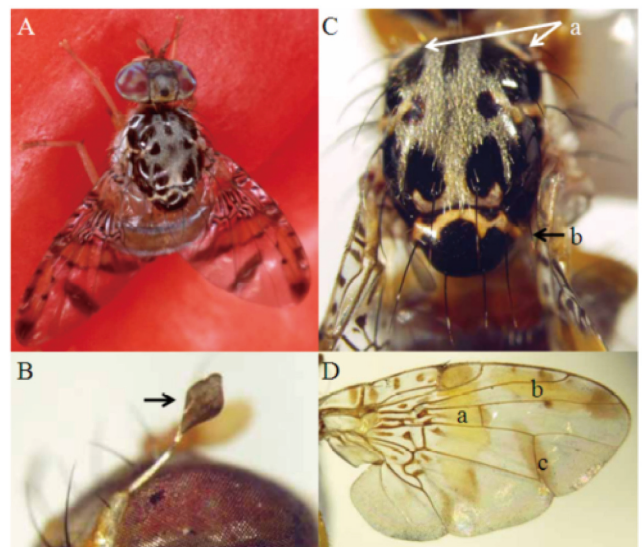


図 チチュウカイミバエ成虫の特徴

A:雌成虫 B:雄成虫の上額眼縁剛毛 C:胸部背板 a 肩瘤
b 小楯板 D:前翅 a 中横帯 b 前縁帯 c 亜先端部横帯